

●User's Voice●

明日香美容文化専門学校 日本語科

<http://www.asuka.ac.jp/nihongo/>

『J.Bridge for Beginners vol.1/vol.2』を初級授業（進学クラス）で使用。

本テキストの採用理由は何でしょうか。

1. 近年の日本語教育の流れに沿っていたこと

近年、どこへ行っても、どの本を見ても「プロフィエンス、できる日本語」が叫ばれている。さらに、実際に現場で教えていて感じることであるが、学習者が中級以上になった時に「自分で気づくことができるかどうか」でその後の上達具合が決まる。言い換えれば、初級のうちから教師は学習者に「気づき」を促すしかけをしていないと、いつまでたっても「親から餌をもらうヒナ」のように学習者は教師に教えてもらうことを口を開けて待っているままである。この中級以上の学習者の伸び悩みを見ていて、初級時に積み上げ式の授業をやってきたことの弊害ではないか、初級のうちから「気づき」を促していれば中級以降も「自ら気づく」学習者になるのではないか、という思いがあった。

2. ほとんどの学生が国で、構造シラバスのテキストを使っていたこと

明日香美容文化専門学校ではこれまではずっと、ある構造シラバスのテキストを使ってきたが、学生は母国でも同じテキストを使用しており、翻訳本も既に持って日本へ来ていた。そのため、日本での授業時にもすぐに「翻訳本」を見てしまうくせがついており、なかなかおらなかつた。

3. 授業準備にかかる時間と労力の削減

さらに、構造シラバスのテキストで授業を行う際には教師の準備が大変だった。それぞれのクラスに合わせて導入から練習、活動までを毎回毎回考えなければならなかつたので準備に深夜までかかってしまう、ということがあった。しかもそれが必ずしも成功するとも限らなかつた。『J.Bridge for Beginners』ではトピック、ストーリーが決まっているので、どのクラスでもテキストの流れに沿っていけば（クラスによって多少の調整はあるが）進めていける、という利点がある。

4. シラバスについて

以前、使用していたテキストは構造シラバスで作られており、ある課では受身形を使った表現として、直接受身、非情物の受身、間接受身のすべてが一課にまとめられていた。これはコンテキストに関係なく並べられているため、ここでのタスクは非常に難しいものだった。直接受身でのタスク、間接受身でのタスク、非情物の受身でのタスクとしなければならなかつた。これは経験の浅い教師にとってはかなりの負担だと思う。コミュニケーションな授業を心がければ心がけるほど、タスクを分ける必要があり、時間もかかってしまう。これは各タスクにかける時間の短縮化にもつながり、中途半端なものになってしまっていたと思う。しかし『J.Bridge for Beginners』はある程度、構造を重要視した上で、ひとつのトピックに必要な表現がシラバスとして考えられている。このことは、コミュニケーション能力の育成を考えた授業では重要なことだと思う。この違いは、これまで使用していた構造シラバスのテキストから主要教科書の変更を考える大きな理由のひとつだった。

どのくらいの期間、本テキストを使用していますか？

2009年4月に採用を開始してからこれまで、4月生・10月生に使用している。

本テキストを使用した授業時間はどのくらいですか。

- ・ 授業回数：50分×18~20コマ／週、総時間数 400時間
- ・ コース期間（テキスト使用期間）：6カ月

本テキストの長所はどんなところでしょうか。

- ・ トピックとストーリーの面白さ。学生の頭に残りやすい。
- ・ トピックシラバスによる文法の導入でコンテキストから考えられる。
- ・ 今までは教師自身も「導入した文法の定着をはかるためのタスク」でしかなかったものが「自分の中の何かを表現するための言語なんだ」と振り返れるところ。
- ・ トピックがつながっており、以前の復習項目が後のトピックでも使われる点。
- ・ はじめの聴解部分でインプットから気づきへと進むため、学習者主体ではじめることができる。
- ・ 課ごとに語彙表が入れられており、わからなければすぐに調べるくせをつけられる。
- ・ 学習者の年齢に近い登場人物や話が現在の日本／日本人になっており、親しみやすく、興味を持ちやすい。
- ・ 3ステップに分けられており、繰り返し学習できることで、前ステップの時にいなかった学生(入国が遅れた、などの理由で)も、次のステップの時に一緒に学ぶチャンスがある。
- ・ 会話が自然。
- ・ 国で初級前半まで学習してからきた学生も退屈せずに学べる。まだまだの学生に合わせた使い方もでき、ある程度の能力がある学生に合わせた使い方もできる。
- ・ vol. 2が終わった時点で中級への橋渡しがいらぬ。トピックの上がり方がとても自然なので、中級に入って戸惑う学生が見られない。以前なら、初級だからと教師側が勝手に入れないでおこうと決めていたものも自然な流れで入れられる。

学生さんからの感想があれば教えてください。

- ・ ゲーム的な要素が強く、楽しめる。
- ・ 問題をみつけ、解決するタスクなどが含まれており学習者が自ら考えるようになった（問題発見・解決能力の育成）。自発的になった。
- ・ 受容的な学び方をしてきた学習者が多く、戸惑う場面があった。
- ・ 流れがあるから面白い。
- ・ 単調な作業を続けることがないので、暇になることがない。
- ・ 聴解のスク립ト部分を読む際、ボリュームがありすぎて大変。（しかし、中級にうつった際に、長文読解を見て「長い！」と拒絶する学生はいなかった。）
- ・ 家でCDを聞いて発音なども一人で練習できる。
- ・ 普段の会話の中で山川さんが話題にのぼるぐらい、登場人物を身近に感じている。他の初級テキストでは見られなかった。
- ・ トピック重視で進めていけるので、自分の気持ちを表現したいという学生が増えた。クラスの雰囲気もよく、学生自身も自然に自分について語りたいという気持ちになれている。

本テキストを使用して、学生さんの力が伸びたと感じられる分野はありますか。

聴解: 以前のテキストの時より格段にCDを聞くことが増え、聴解力が伸びたと感じられる。
会話&文法: 『J.Bridge for Beginners』内に出てくる会話が自然で、それを聞いて日本語を学んだ学

生は、以前の学生に比べて話し方・聞き方が上手い。また場面で学んだことで、その場面で文法がでてくるようになった。

語彙／表現: 自分の身の回りのことから社会的なことにだんだん広がり、中級に入った時に「急に難しくなった」と言う学生はいなかった。

その他: 勉強の仕方が上手になった。(効率的になった?)

その他使用していて感じることはありますか。

日本語力がなくても社会的なことに興味がある学生が多く、歴史や地方の問題点、現代の日本人の考え方、地理など内容のあるトピックばかりで、その面白さから学習の負担が軽減されていた(かも?)。

じっくり何かについて考える時間が増えた。14課「将来の夢」の作文や18課「余暇の過ごし方」の発話などにおいては、その課の文法が理解できても自分自身について改めて考え直してみたり、調べたりしなければできないタスクがある。そのタスクを達成するために学生が自分で考えるということをし、学生の意識も変わったように思う。